

Church College III

キリスト教文学への ^{いざな}誘い

—近代日本文学とキリスト教の ^{ダイアローグ}対話—

全3回講座 2019年2月9日～2019年11月9日

私たちが親しんできた近代以降の日本文学は、その多くが、キリスト教と深く関わり、様々な影響を受けてきました。そうした中から皆さんがよくご存じの作家と作品を取り上げて、それらが日本人の生き方や考え方にどのような影響を与えてきたかを共に学び、そのことを通して、より深く親しむことが出来ればと願っています。

第1回講座 2019年2月9日(土) 午後2時～4時

キリスト教と日本人

—遠藤 周作『沈黙』から考える

富岡 幸一郎先生 (関東学院大学教授)



プロフィール 1957年東京生まれ。中央大学フランス文学科卒業。在学中(1979年)に文芸雑誌「群像」の新人文学賞評論優秀作を受賞し評論活動を開始。関東学院大学教授。鎌倉文学館館長。著書『内村鑑三』(中公文庫)『使徒的人間カール・バルト』(講談社文芸文庫)他。

要旨 キリスト教が日本の社会で拡がらないことがしばしば云われています。伝道の課題となっています。カトリックの信仰を生き、文学者として多くの作品を残した遠藤周作の代表作『沈黙』を通して、キリスト教と日本人、そしてこの国の精神風土のあり方を考えてみましょう。長崎の潜伏キリシタンの遺産が世界遺産となりました。潜伏(隠れ)キリシタンのことも改めて視野に入れてみたいと思います。

第2回講座

2019年7月13日(土)午後2時～4時

詩人・大学講師 柴崎 聰先生

「詩人は聖書をどのように表現したか」

第3回講座

2019年11月9日(土)午後2時～4時

関西学院大学名誉教授 細川 正義先生

太宰 治文芸とキリスト教

—『正義と微笑』を中心に—

どなたでもお越し下さい。無料

日本キリスト教団 塚口教会

〒661-0012 尼崎市南塚口町2-34-3

Tel 06-6429-3019

阪急塚口駅南へ300m(徒歩約5分)

2つ目の信号を右(西)(園田学園中高等学校東側)

